

熊本市の自殺の概要（令和3年版）

1 自殺者数の状況と推移（「自殺統計」）

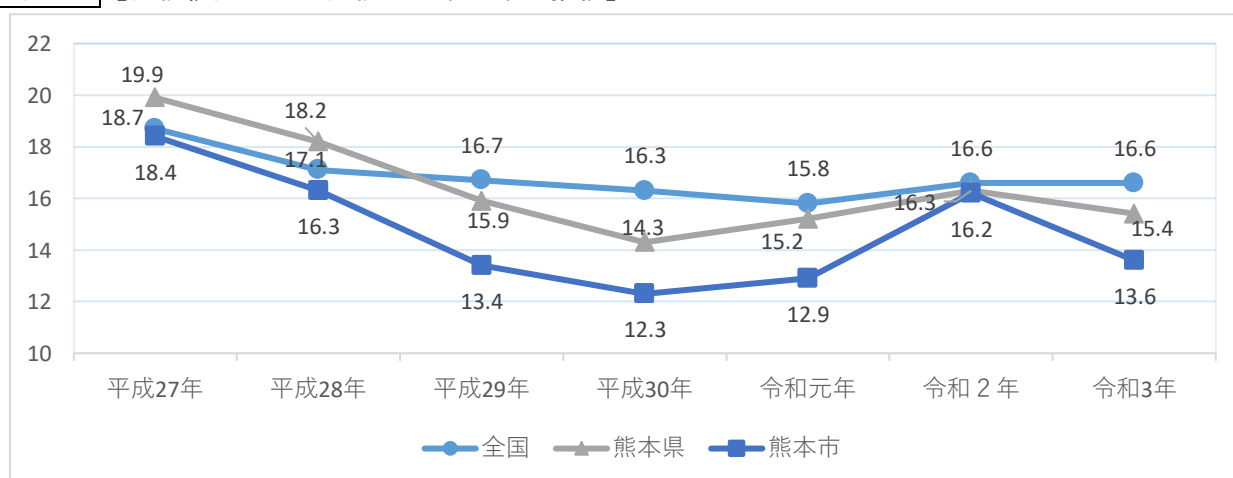
- 熊本市の自殺者数は、自殺統計では 100人 となっており、前年（令和2年）と比べると 19人の減少 となった。
- 熊本市の自殺死亡率は、自殺統計では 13.6 となっており、前年より 2.6ポイントの減少 となった。

（1）「自殺統計」（警察庁）による状況

		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
全国	自殺者数	24,025	21,897	21,321	20,840	20,169	21,081	20,984
	自殺死亡率	18.7	17.1	16.7	16.3	15.8	16.6	16.6
熊本県	自殺者数	361	329	285	256	270	288	271
	自殺死亡率	19.9	18.2	15.9	14.3	15.2	16.3	15.4
熊本市	自殺者数	135	120	98	90	95	119	100
	自殺死亡率	18.4	16.3	13.4	12.3	12.9	16.2	13.6

※発見日、住居地によるデータ

グラフ1 【自殺統計による自殺死亡率の年次推移】



【参考】熊本市の自殺対策に係る目標値

「熊本市自殺総合対策計画（仮称）」において次の目標（案）を掲げている。

指 標	現状（基準値）	目標値
	平成27年	
● 2023年までに、自殺死亡率を2015（平成27）年と比べて30%以上減少させる。	17.2	12.0

※現状（基準値）と目標値は「人口動態調査」に基づくもの。

※目標値は自殺総合対策大綱における目標（平成27年と比べて30%以上減少させる。）を参考。

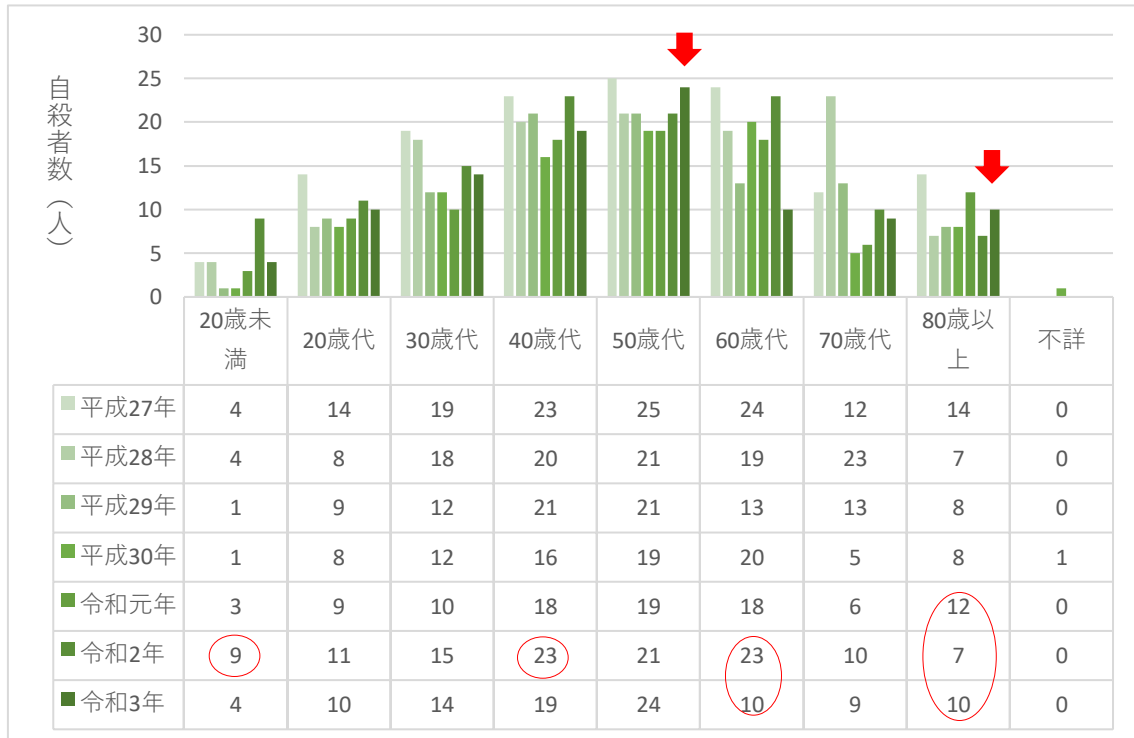
※人口動態統計に関しては本資料作成時、令和元年の数値までしか公表されていなかったため、警察庁統計のみ掲載。

2 年齢別・男女別の状況（警察庁自殺統計）

(1) 年齢別の推移

- 年齢別では、50歳代、80歳以上の年代で前年を上回った以外は、いずれの年代においても下回っていた。
- 特徴的な部分を抽出すると、令和2年の20歳未満、40歳代、60歳代の増加が目立つ。令和2年は80歳以上以外の全年代で増加しているが、80歳以上は減少した。令和3年度の60歳代が前年比▲13人と大幅に減少している。

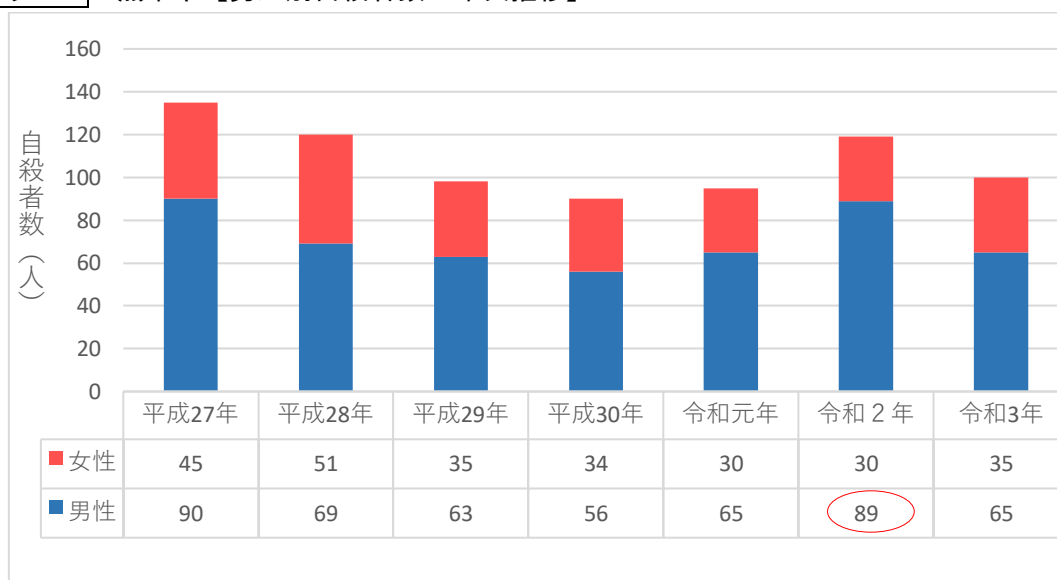
グラフ2 【年齢階層別自殺者数の年次推移】



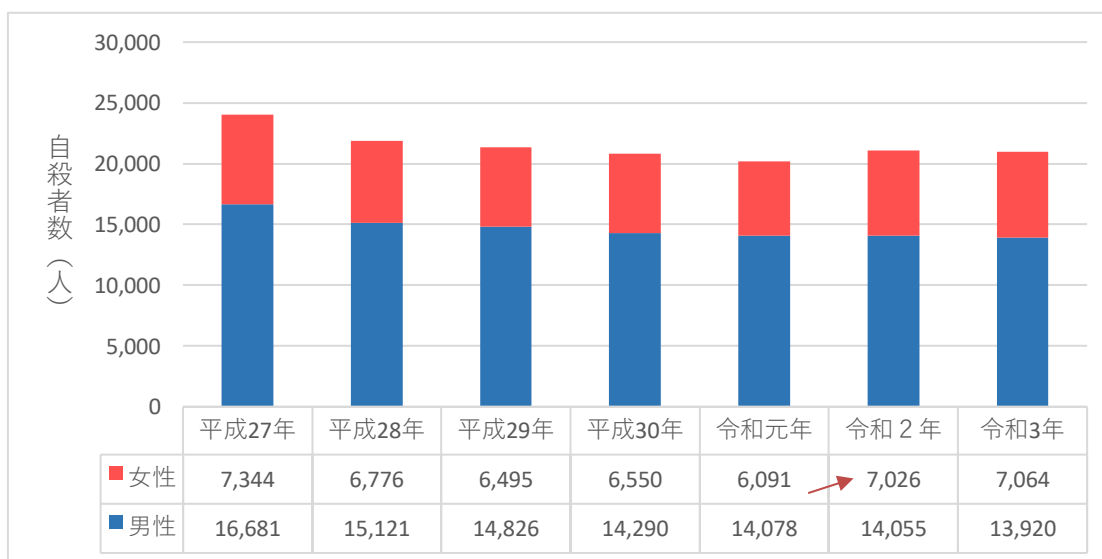
(2) 男女別の推移

- 男女別では、男性の自殺者数が前年に比べ24人減少したが、女性の自殺者数は前年から5人増加した。
- 全国と比較した男女別では、全国の男性が年々逡減しているのに対し、熊本市は令和元年と令和2年に増加した。女性に関しては、全国が令和2年と令和3年に増加しているのに対し、熊本市の令和2年は令和元年同様、低い水準である。令和3年も増加しているが、平成29年や平成30年の水準とほぼ同じで、全国での水準に比べ、低い。
- 熊本市の令和2年男性が突出している。また、全体的に男性の自殺者数は女性の2倍程度ある。

グラフ3 熊本市【男女別自殺者数の年次推移】



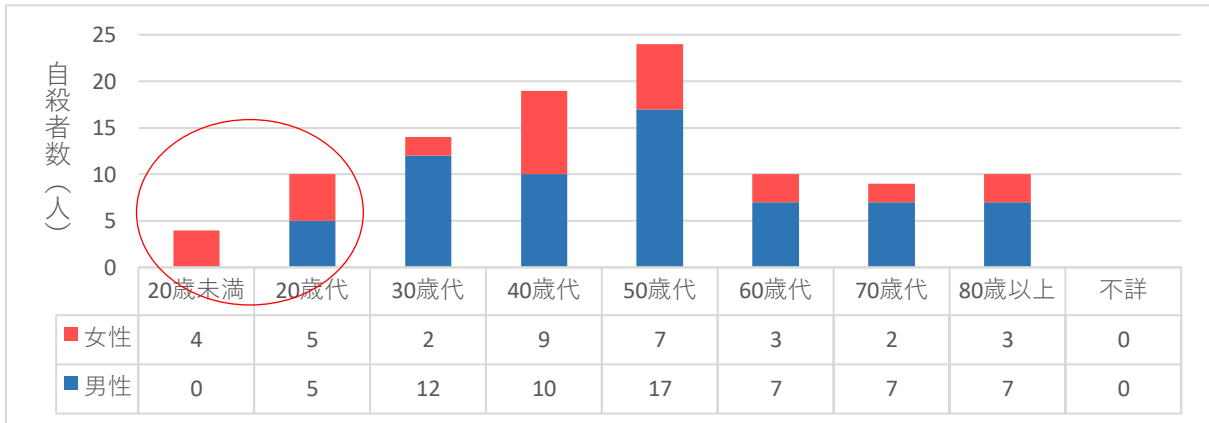
グラフ4 全国【男女別自殺者数の年次推移】



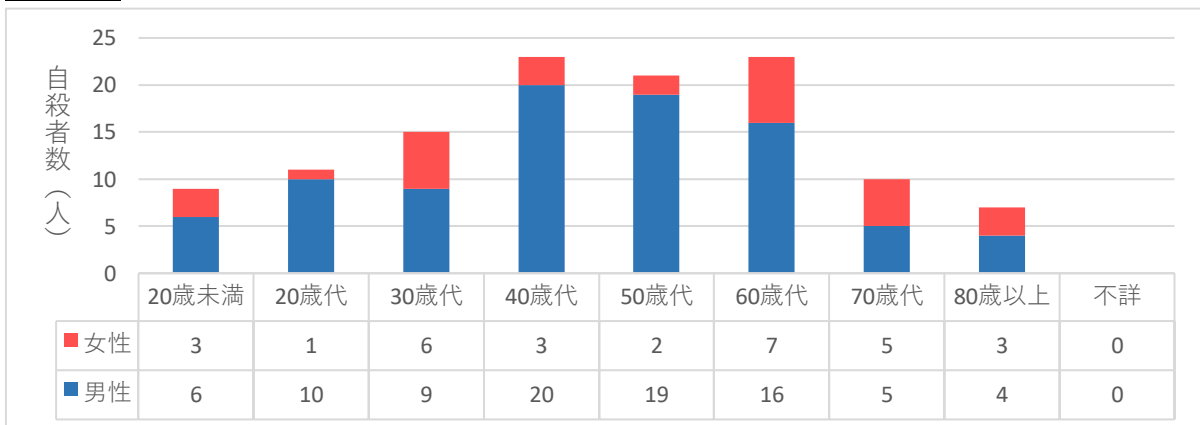
(3) 年齢別で見た男女別自殺者数

- 男女別の自殺者数を年齢別で見ると、男性では、30歳代、70歳代及び80歳以上で前年より増加が見られ、その他の年代ではいずれも減少している。
- 一方、女性では20歳未満、20歳代、40歳代及び50歳代で増加が見られ、それ以外の年代では前年より減少もしくは同一となっている。
- 令和3年の特徴は若年層の女性（20歳未満、20歳代）の増加が見られる。

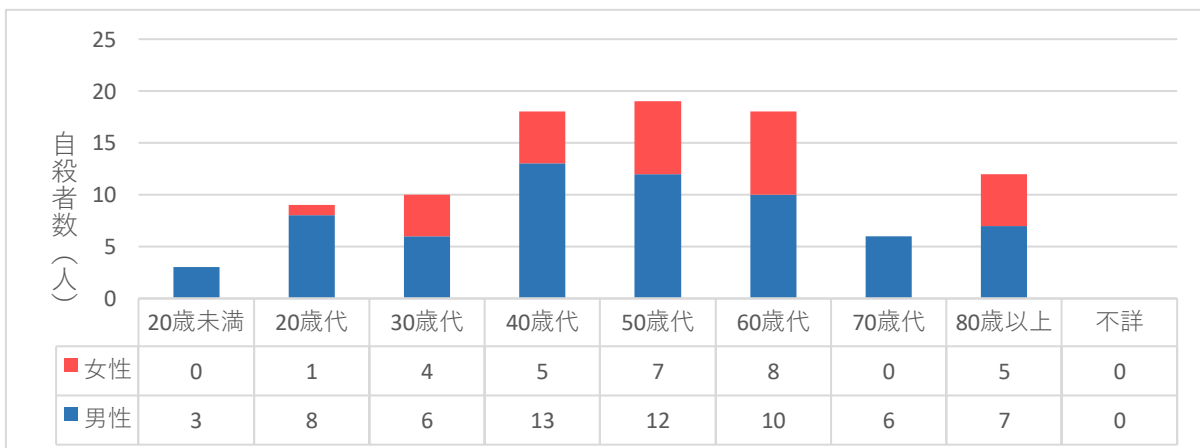
グラフ5 【年齢階層別男女別自殺者数（令和3年）】



グラフ6 【年齢階層別男女別自殺者数（令和2年）】



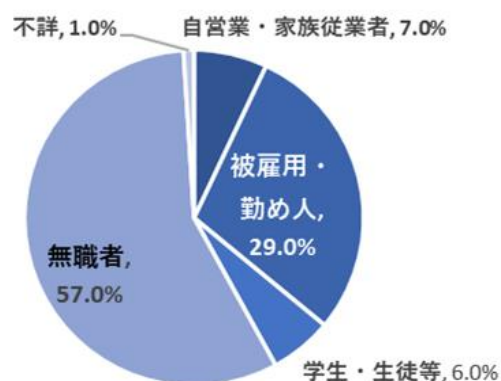
グラフ7 【年齢階層別男女別自殺者数（令和元年）】



3 職業別の状況（警察庁自殺統計）

- 職業別では、最も多い「無職者」57人（57.0%）と、続く「被雇用・勤め人」29人（29.0%）で全体の8割強を占めている。
- 「無職者」を除き、全ての職業で前年を下回った。
- 令和2年の被雇用・勤め人が突出している。
- 直近3年は学生・生徒等が増加している。
- 自営業・家族従事者は令和元年・2年の増加が目立つ。

グラフ8 【職業別自殺者数の割合（令和3年）】



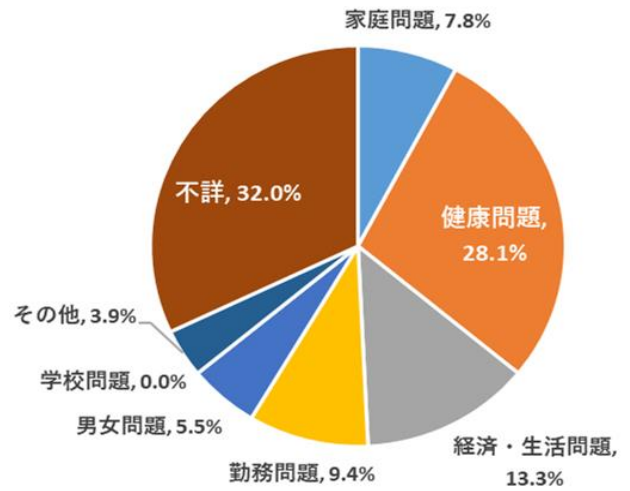
年	区分	自営業・家族従業者	被雇用・勤め人	学生・生徒等	無職者	不詳	計
平成27年	自殺者数（人）	7	39	8	79	2	135
	構成割合（%）	5.2%	28.9%	5.9%	58.5%	1.5%	100%
平成28年	自殺者数（人）	9	29	7	75	0	120
	構成割合（%）	7.5%	24.2%	5.8%	62.5%	0.0%	100%
平成29年	自殺者数（人）	8	28	2	59	1	98
	構成割合（%）	8.2%	28.6%	2.0%	60.2%	1.0%	100%
平成30年	自殺者数（人）	5	26	3	52	4	90
	構成割合（%）	5.6%	28.9%	3.3%	57.8%	4.4%	100%
令和元年	自殺者数（人）	11	23	7	53	1	95
	構成割合（%）	11.6%	24.2%	7.4%	55.8%	1.1%	100%
令和2年	自殺者数（人）	11	41	8	57	2	119
	構成割合（%）	9.2%	34.5%	6.7%	47.9%	1.7%	100%
令和3年	自殺者数（人）	7	29	6	57	1	100
	構成割合（%）	7.0%	29.0%	6.0%	57.0%	1.0%	100%

4 原因別の状況（警察庁自殺統計）

- 原因別で見ると、「健康問題」が36人（28.1%）と最も高い。しかし毎年低減しており、割合は減少傾向にある。
- 次いで「経済・生活問題」17人（13.3%）となっている。近4年では横ばいとなっている。
- 「勤務問題」は、令和2年より増加傾向が見られる。対して、「家庭問題」は減少傾向にあり、令和3年は逆転している。
- 「学校問題」は、令和2年に増加したが、令和3年は0人であった。

グラフ9

【原因別自殺者数の割合（令和3年）】

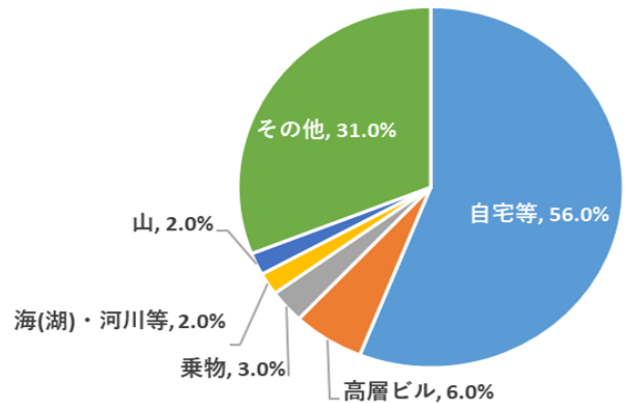


年	区分	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳	計
平成27年	自殺者数（人）	24	75	18	12	6	4	4	33	176
	構成割合（%）	13.6%	42.6%	10.2%	6.8%	3.4%	2.3%	2.3%	18.8%	100%
平成28年	自殺者数（人）	20	90	9	6	4	2	2	21	154
	構成割合（%）	13.0%	58.4%	5.8%	3.9%	2.6%	1.3%	1.3%	13.6%	100%
平成29年	自殺者数（人）	19	66	15	13	3	0	2	14	132
	構成割合（%）	14.4%	50.0%	11.4%	9.8%	2.3%	0.0%	1.5%	10.6%	100%
平成30年	自殺者数（人）	15	59	16	7	6	1	3	14	121
	構成割合（%）	12.4%	48.8%	13.2%	5.8%	5.0%	0.8%	2.5%	11.6%	100%
令和元年	自殺者数（人）	13	40	16	3	3	1	9	34	119
	構成割合（%）	10.9%	33.6%	13.4%	2.5%	2.5%	0.8%	7.6%	28.6%	100%
令和2年	自殺者数（人）	14	46	21	14	7	4	6	40	152
	構成割合（%）	9.2%	30.3%	13.8%	9.2%	4.6%	2.6%	3.9%	26.3%	100%
令和3年	自殺者数（人）	10	36	17	12	7	0	5	41	128
	構成割合（%）	7.8%	28.1%	13.3%	9.4%	5.5%	0.0%	3.9%	32.0%	100%

5 場所別の状況（警察庁自殺統計）

- 場所別では、「自宅等」が56人(56.0%)と最も多かった。割合としては大きな変化は見られない。
- 次いで「その他」31人(31.0%)となっており、令和2年より増加傾向にある。
- 「自宅等」と「その他」で87人(87.0%)を占めており、それ以外の場所は減少もしくは同水準となっている。

グラフ10 【場所別自殺者数の割合（令和3年）】

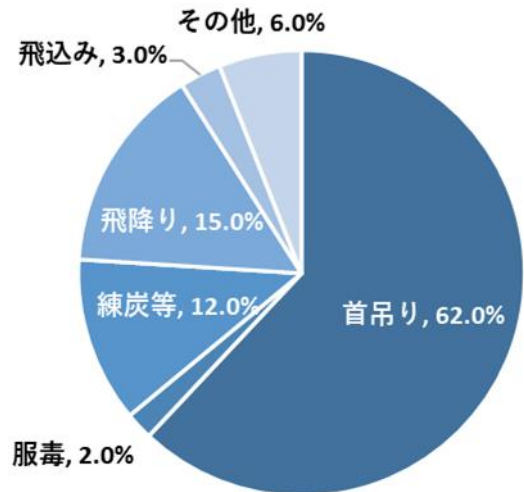


年	区分	自宅等	高層ビル	乗物	海(湖)・河川等	山	その他	計
平成27年	自殺者数(人)	88	17	7	6	5	12	135
	構成割合(%)	65.2%	12.6%	5.2%	4.4%	3.7%	8.9%	100%
平成28年	自殺者数(人)	61	17	10	10	2	20	120
	構成割合(%)	50.8%	14.2%	8.3%	8.3%	1.7%	16.7%	100%
平成29年	自殺者数(人)	56	4	7	2	6	23	98
	構成割合(%)	57.1%	4.1%	7.1%	2.0%	6.1%	23.5%	100%
平成30年	自殺者数(人)	47	10	7	3	4	19	90
	構成割合(%)	52.2%	11.1%	7.8%	3.3%	4.4%	21.1%	100%
令和元年	自殺者数(人)	57	12	2	0	6	18	95
	構成割合(%)	60.0%	12.6%	2.1%	0.0%	6.3%	18.9%	100%
令和2年	自殺者数(人)	64	11	5	8	1	30	119
	構成割合(%)	53.8%	9.2%	4.2%	6.7%	0.8%	25.2%	100%
令和3年	自殺者数(人)	56	6	3	2	2	31	100
	構成割合(%)	56.0%	6.0%	3.0%	2.0%	2.0%	31.0%	100%

6 手段別の状況（警察庁自殺統計）

- 手段別では「首つり」が最も多く62人（62.0%）であった。
- 次に、「飛降り」15人（15.0%）となっている。
- 3番目に多かった練炭等12人（12.0%）が近年、減少していたのに対し、増加した。

グラフ11 【手段別自殺者数の割合（令和3年）】



年	区分	首吊り	服毒	練炭等	飛降り	飛込み	その他	計
平成27年	自殺者数（人）	85	1	11	19	3	16	135
	構成割合（%）	63.0%	0.7%	8.1%	14.1%	2.2%	11.9%	100%
平成28年	自殺者数（人）	73	2	8	22	1	14	120
	構成割合（%）	60.8%	1.7%	6.7%	18.3%	0.8%	11.7%	100%
平成29年	自殺者数（人）	71	2	9	4	1	11	98
	構成割合（%）	72.4%	2.0%	9.2%	4.1%	1.0%	11.2%	100%
平成30年	自殺者数（人）	59	1	10	13	1	6	90
	構成割合（%）	65.6%	1.1%	11.1%	14.4%	1.1%	6.7%	100%
令和元年	自殺者数（人）	67	1	4	14	2	7	95
	構成割合（%）	70.5%	1.1%	4.2%	14.7%	2.1%	7.4%	100%
令和2年	自殺者数（人）	76	3	5	16	3	16	119
	構成割合（%）	63.9%	2.5%	4.2%	13.4%	2.5%	13.4%	100%
令和3年	自殺者数（人）	62	2	12	15	3	6	100
	構成割合（%）	62.0%	2.0%	12.0%	15.0%	3.0%	6.0%	100%

新型コロナウイルス感染症と自殺者数について

- 新型コロナウイルス感染症の拡大期と自殺者数（全国、熊本市）をグラフ化した結果、相関関係はあまりみられず、自殺者数とコロナ拡大期のはっきりとした因果関係は不明。

グラフ12

【自殺者数とコロナ拡大期】

自殺者数とコロナ拡大期（R2.1～R3.12）

